

新発田市 令和4年度 第5回定例記者会見

1 日 時 令和4年8月1日(月)午前 11 時～

2 場 所 ヨリネスしばた 501 会議室

3 内 容

【市長発表項目】

○(仮)高校生等(ユース世代)家庭支援給付金事業、大学生等応援給付金事業について

○「^は歯つらつ^{けんこう}健口事業」について

○蕨谷虹児記念館 開館 35 周年記念展

○企画展示「大倉喜八郎と蔵春閣」・「大倉喜八郎と同時代を生きた偉人たち」

○しばた・かがふえす in 札の辻開催

【その他】

○夏の風物詩！園庭でスイカ割り！

○夏休みイベント企画「親子で城下町まち歩き」

○「しばた平和のつどい」開催

○市街地循環バス車両 2 台を更新します

○不動産フェア

○令和 4 年度高校音楽祭

○第51回新発田市美術展覧会(市展)出品作品募集

○第50回新発田市幼児、小・中学校美術展(ジュニア展)「こども絵画展」出品作品募集

○新規救急隊長訓練

○水難救助強化訓練

あいさつ

- このところ、夏らしい日が続いておりますが、夏というと夏祭りということになるわけで、長岡は、大花火大会を決行すると聞いております。新潟市は延期をするということでもありますけれども、ここに来てコロナが蔓延しているという状況で、新発田市も23日の花火を皮切りに、27日～29日まで予定しております。
- 中止あるいは延期というところまではまだ決断をしておりません。というのも、予定をしていた新発田まつりの寄附が、ほぼ集まったということですし、市民の皆さん方も快く寄付に応じていただいております。そんな話を聞いておりますと、3年越しの新発田まつりを市民が大変待っていることが伺えるわけでもありますので、何としても今年は新発田まつりを実行したいというふうに思っています。
- 県のコロナの予報を聞きますと、お盆くらいまでがピークなのではないか、お盆を過ぎると下降線になるのではないかとということです。新発田まつりは、お盆が明けた後でありますので、まだ決断をするのは早いなということで、ギリギリまで判断を待とうということでもあります。できればコロナも少し縮小するような感じになってくれて、気持ちよく新発田まつりを実行したいなと思っているところであります

それでは会見項目に従いまして説明をさせていただきたいと思います。

最初に、高校生等(ユース世代)家庭支援給付金事業、大学生等応援給付金事業について

- 当市は「子育てするならやっぱり新発田」をスローガンに、子育て支援を積極的に展開しております。
- 今回は県の補助金を活用して、コロナ禍や物価高騰に苦しむ低所得世帯の中でも、高校や大学等へ通うお子さんのいる世帯や、既に社会に出た若者層の世帯を対象とした支援を検討しているところであります。
- 高等学校等に通学している子を持つ住民税非課税世帯等は、授業料や教材費、修学旅行費などの支援を国や県から受けることができる一方で、それよりも少し所得が多い所得割課税世帯は、教材費などの支

援はありません。これが大きな負担となり、高校生の段階で貸付金を利用する世帯も少なくありません。そのことが家計を圧迫し、希望する進路の実現が困難になり、不安定就労に繋がる恐れもあります。

○県内の高校生の約 80%が大学や専修学校へ進学しておりますが、大学生の 2 人に 1 人が奨学金を受給している状況となっており、家計の負担はかなり大きくなっている現状もあります。

○これらの世帯に対し、高校生、大学生等 1 人につき 10 万円の支援、また、既に社会人になられた 16 歳から 18 歳までの単身世帯に対しても、10 万円の支援を考えているところであり、関係予算は、9 月議会に上程する予定としております。

○どのような社会情勢になっても、教育は未来への投資であり、若者が元気になることが「まちの元気」に直結いたします。新発田の若者たちが、学業に専念できる基盤の強化を図るとともに、様々な困難や悩みを抱える若い方たちへ支援のメッセージを発してまいります。

次に、はつらつ健口事業について

○口腔の健康は全身の健康状態を左右する健康長寿の要です。食事や会話を楽しむことで、生活の質を維持するだけでなく、豊かにすることもできます。国も、ようやく歯と口腔に本腰を入れるため、国民総歯科健診の検討に着手したと聞いております。

○当市では、国に先駆け、今から 25 年も前から成人の歯科検診に独自に取り組んでまいりました。現在、健康増進法の努力義務とされる 40・50・60・70 歳の要年齢に加え、市独自で 35・45・55・65・76・80 歳の 6 年齢にも実施し、35～80 歳までの間、5 歳刻みで 10 回の無料歯科検診を実施しております。

○成果としては、60 歳で 24 本以上歯がある人の割合は、県平均の 66.2%を大きく上回る 84.7%。また、80 歳で 20 本以上歯がある人の割合も県平均 36.6%を上回る 49.3%となっておりますし、歯科検診受診率も 23.7%となっております。

- 新潟県の歯科保健への取組は、全国トップレベルと言われておりますことから、当市の歯科保健事業の充実度、成果ともに全国でも群を抜いたレベルであると自負しております。その上で、さらに今年度は新事業として、介護認定において、新たに要支援 1・2 となった方を対象に 2 回の歯科健診と保健指導を実施する無料の口腔ケアに取り組むことにいたしました。
- 高齢者にとって、健康な状態から要介護に移行する間の状態、すなわち、身体機能が弱っている虚弱期である「フレイル期」にどう支援の手を差し伸べ、健康状態に引き戻すかが重要であります。要介護に移行させない、また、フレイル状態から脱却できるよう支援することが健康寿命延伸のための大きな分岐点となります。
- 新発田市歯科医師会の皆様にご協力をいただきながら、健康長寿のまち作りをさらに加速するために、高齢者への先駆的な口腔ケアにも取り組んでまいります。

次に、落谷虹児記念館開館 35 周年記念展について

- 1987 年 7 月 1 日に開館した落谷虹児記念館が、今年 35 周年を迎えました。開館以来、当市出身の抒情画家、落谷虹児の業績と魅力を伝え続けてきた当市の重要な観光拠点の一つでもあります。
- 記念館の建物は、日本を代表する建築家の 1 人、内井昭蔵氏が設計し、平成 10 年には県内で唯一の「公共建築百選」に認定されています。記念館そのものがまさに虹児の抒情画の世界を具現化しているとも言える素晴らしい建築美を誇っております。
- その記念館ですが、実は建設当初、内井氏とご遺族である落谷家との間では、「特徴的な丸窓を虹児の描いた絵柄にしてはどうか」という構想があったそうであります。様々な事情により、開館以来、すりガラスを採用してまいりました。
- 35 周年を迎えた今年、ご遺族からの要望もあり、記念展の開催に合わせ、丸窓を念願だった虹児の絵柄にリニューアルする運びとなりました。虹児の美人画や童話作品に彩られた新たな装いで、ご来館いただく皆

様をお迎えしたいと考えております。

- 今回の記念展では、今年度、新たに県内の収集家からお譲りいただいた口絵原画「雪模様」を初公開いたします。リニューアルしたものとともに、虹児の作品を余すところなくお楽しみいただきたいと思いますと考えております。
- 本日記者の皆様にお配りしたメモ帳は、今回の 35 周年記念展のノベルティグッズとして制作したものであります。会期中、記念館の売店で 500 円以上お買い上げの方先着 1000 名様にプレゼントするものであります。
- 開館 35 周年記念を通じて、多くの方にご来館いただき、改めて新発田が誇る露谷虹児の魅力を市内外に発信してまいりたいと考えているところでもあります。

次に、企画展示「大倉喜八郎と蔵春閣」および「大倉喜八郎と同時代を 生きた偉人たち」について

- 令和 5 年 4 月の蔵春閣一般公開に向け、郷土が産んだ偉人大倉喜八郎の業績とまちなか活性化の新しい拠点となる蔵春閣を多くの方に知っていただくために、全庁を挙げて取り組んでいるところであります。
- その一環として、来年の公開に先立ち、中央図書館と歴史図書館で大倉喜八郎と蔵春閣に関連する資料展示を行います。蔵春閣は、明治 45 年に当時の最高技術により、東京の向島に建設され、明治・大正期の政財界人、外国からの来賓をお迎えした「おもてなしの建物」であり、新発田市へ移築し、引き継ぐに当たりまして、喜八郎翁の「おもてなしの精神」を同時に引き継ぎ、多くの方々に新発田に来ていただき、感動し、楽しんでいただきたいと思いますと考えております。
- 100 年以上の年月を得た建物でありますので、その復元にあたり、天井板の一部などは、建物への利用が難しいことがわかりました。これらは新しい部材へ置き換えましたが、建物として利用できない部材でも、当時の技術を伝える文化財としての価値が十分備わっております。この天井板を歴史図書館で公開いたします。細かいところにも目を配った喜八郎翁の思いを皆様にも確かめていただきたいと思いますと考えているところです。

- また蔵春閣の玄関に置かれていた身だしなみを確認するための大きな装飾鏡も公開いたします。鏡の前で等身大の喜八郎の写真と一緒に撮影できる自撮りコーナーも準備しておりますので、ちょっとおめかしして歴史図書館を訪ねてみてはいかがでしょうか。
- 併せて、蔵春閣の向かいの中央図書館でも、蔵春閣の資料や大倉喜八郎、関わりのあった偉人たちの資料を展示いたしますので、こちらにもぜひ、足をお運びいただきたいと思ひます。

最後に、「しばた・かがふえす in 札の辻開催」について

- 新発田藩初代藩主の溝口秀勝侯が、加賀大聖寺から、入封した歴史的な経緯により、石川県加賀市と友好都市協定を結び、昨年で30周年を迎えました。1年延期としておりました30周年記念事業は、加賀市をメイン会場として、記念植樹・記念式典・祝賀会を行います。
- 従来、加賀市との周年記念事業は、両市を訪問し合って、友好を深めてまいったところですが、現在、新型コロナウイルス感染症の流行が収まっておりませんことから、訪問する人数を私のほか数名に制限することといたしました。コロナ禍での新しい交流スタイルの一つとして、オンラインを活用して、メイン会場の加賀市と新発田市の両会場を結びます。
- 溝口侯の入封に合わせて、多くの農民や商人、僧侶たちも新発田へやってきたと言われております。武家町、町人町、寺町などの特徴的なまちが形成され、和菓子などの伝統文化が深く根付いていたのも、加賀大聖寺との浅からぬ縁があればこそだと感じております。広く市民の皆様が新発田に居ながらにして、加賀市との交流を体験していただくとともに、加賀市との歴史的な繋がりについて理解を深めていただきたいと思っております。
- なお、新発田会場の札の辻広場では、太鼓やダンスなどのステージパフォーマンスや、子どもに大人気の遊具「ふわふわ新発田城」なども登場しますので、子どもから大人まで、皆さんで楽しみながら、加賀市との交流を盛り上げてほしいと思ひます。